

Fire OS - Origin

副題:燃焼を「破壊」ではなく「連鎖状態」として再定義する原理

1. 問題提起 (Problem)

火災・爆発・延焼は、突発的な事故として扱われている。

しかし実際には、燃焼は突然発生する現象ではない。

条件が揃ったときに必然的に発生する連鎖反応である。

現在の社会では、燃焼を「発生後に対処する現象」として扱っており、

燃焼が成立する前段階の構造には十分に介入できていない。

2. 解決できない理由 (Why Existing Systems Fail)

既存の防火・消火技術は、

- 人の注意力に依存している
- 事後対応を前提としている
- 燃焼を単一の事象として扱っている

その結果、燃焼を

「条件の接続によって成立する状態」

として捉えることができない。

このため、成立前の分離・予防・再構成が設計対象になっていない。

3. 原理原則 (Origin Principle)

燃焼は、以下の三要素が同時に接続され続けることで成立する。

- 可燃物
- 酸素
- 熱

この三要素のうち、

いずれか一つが接続されなければ燃焼は成立しない。

重要なのは燃焼そのものではなく、

三要素が同時に接続され続ける構造である。

4. Fire OSの原理定義

Fire OSは、以下の原理に基づいて設計される。

1. 燃焼条件を「連鎖構造」として捉える
2. 三要素の接続状態を設計対象とする
3. 成立条件が同時に揃わない状態を維持する

火を止めない。

燃焼が成立しない状態を設計する。

5. Originの結論

火は危険そのものではない。

制御されない連鎖構造が危険なのである。

Fire OSは、燃焼を一度きりの現象としてではなく、状態が遷移し続ける構造として捉える。

Author: Gokan OS

Protocol: Open ORISIN

Contact: contact@gokanos.com